

石川県立歴史博物館
TEL : 076-262-3236
E-mail : rekihaku@pref.ishikawa.lg.jp
URL : <https://www.ishikawa-rekihaku.jp/>

資料提供

歴史博物館の令和6年度テーマ展についてご案内いたしますので、報道等により広くご案内くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

石川県立歴史博物館 令和6年度テーマ展 「輪島・住吉神社ゆかりの宝物」「県指定文化財 須須神社文書を読む」開催概要

- 1. 名称** テーマ展1「輪島・住吉神社ゆかりの宝物」
テーマ展2「県指定文化財 須須神社文書を読む」
- 2. 会期** 令和7年1月4日(土)～2月16日(日)【44日間】
9：00～17：00（入場は16：30まで） 会期中無休
- 3. 会場** 石川県立歴史博物館 特別展示室・企画展示室
- 4. 主催** 石川県立歴史博物館
- 5. 後援（予定）** 北國新聞社、NHK金沢放送局
- 6. 観覧料** 常設展のチケットでご入場いただけます
〈常設展料金〉
一般300(240)円 大学生240(190)円 高校生以下無料
※（ ）は20名以上の団体料金／65歳以上の方は団体料金
※障害者手帳または「ミライロID」ご提示の方および付添1名は無料

7. 趣 旨

令和6年能登半島地震、および令和6年奥能登豪雨により、能登半島は甚大な被害を受けました。住み慣れた町の風景が一変し、また故郷を離れることを余儀なくされた方々も多い中、地域の宝を知ること、ふるさとの魅力を再発見し、生活再建へ歩む活力に繋がるのではないかと思います。加えて、被災状況が広く報道され、レスキュー等で県内外から多くの方が訪れる中で、全国的に能登への関心が高まっていることを感じます。

地震から1年となる今、当館では、奥能登地域に伝わった文化財を二つのテーマで展示いたします。本展が、能登の歴史・文化に対する理解を深め、能登へ心を寄せる機会となれば幸いです。

キャッチフレーズ：いま見たい、能登の文化財

テーマ展1「輪島・住吉神社ゆかりの宝物」

輪島市鳳至町の中央部に鎮座する住吉神社は、式内社である鳳至比古神社の後裔にあたる神社のひとつと伝えられ、鳳至郡の大宮として広く信仰されてきました。本展示では、当館のコレクションの中から住吉神社伝来の仮面や懸仏、仏像を紹介します。度重なる災禍をくぐり抜けて現在に伝わる貴重な宝物をご覧くださいとともに、中近世における住吉神社の様相の一端を探ります。

テーマ展2「県指定文化財 須須神社文書を読む」

能登半島の北東端、珠洲市三崎町にある須須神社は、奥能登屈指の古社として知られ、多数の文化財を所蔵しています。中でも石川県指定文化財である須須神社文書は、県内最古の年紀を持つ承安5年(1175)2月28日の「能登国司序宣」や、天正14年(1586)2月13日の「前田利家寄進状案」など、平安時代から江戸時代に至るまでの貴重な古文書を擁する文書群であり、本県の歴史を語るうえで必須の資料となっています。

本展では須須神社文書とその関連資料を展示し、須須神社およびその別当寺であった高勝寺(現在は廃寺、翠雲寺が跡地に移転)の歴史を紹介します。

8. 関連イベント

学芸員による展示解説

1月8日(水) 10:30~11:30

1月11日(土) 13:30~14:30

※申込不要、常設展の観覧券が必要

9. 主な出品資料

テーマ展1「輪島・住吉神社ゆかりの宝物」

鼻高面 室町時代 住吉神社伝来 石川県立歴史博物館蔵



眉を立てて目は大きく見開き、口を開いて上下の歯を見せる。鼻高(現在は一部欠損)で赤ら顔の姿は天狗を思わせるが、神事において神輿を先導する「王舞」に使用された可能性も考えられる。細部にこだわった造形や、鋭い彫り口が魅力的。

菩薩・天部形懸仏のうち虚空蔵菩薩懸仏 江戸時代 住吉神社伝来 石川県立歴史博物館蔵



懸仏は金属製や木製の鏡板に仏像や種子などをあらわしたもの。堂や社殿に懸けて礼拝された。本作は五面で一具の例であり、聖観音菩薩、虚空蔵菩薩、毘沙門天、菩薩形の像容が確認できる（残り一面は尊像を亡失）。虚空蔵菩薩が含まれることから石動山信仰に関して制作された可能性がある。

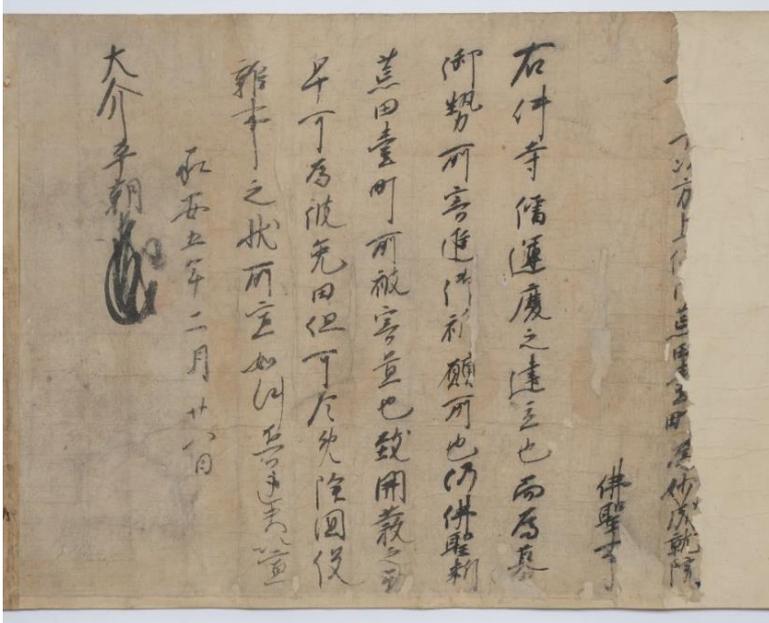
大黒天像 頭部 室町～江戸時代 住吉神社伝来 石川県立歴史博物館蔵



大黒天はもともと戦闘神であったが、その後豊穰を司る神とされ、中世以降は「福の神」としての信仰が定着した。本像は頭に頭巾をかぶり、豊満な顔つきで歯を見せてにっこりと笑う「福の神」の姿である。宝永元年（1704）頃に成立した紀行文である『能登一覽記』に本像と思しき大黒天像の存在が記される。像全体の大半を失っているのが惜しまれるが、中近世における大黒天信仰の広がりを示す大規模な遺例として貴重である。

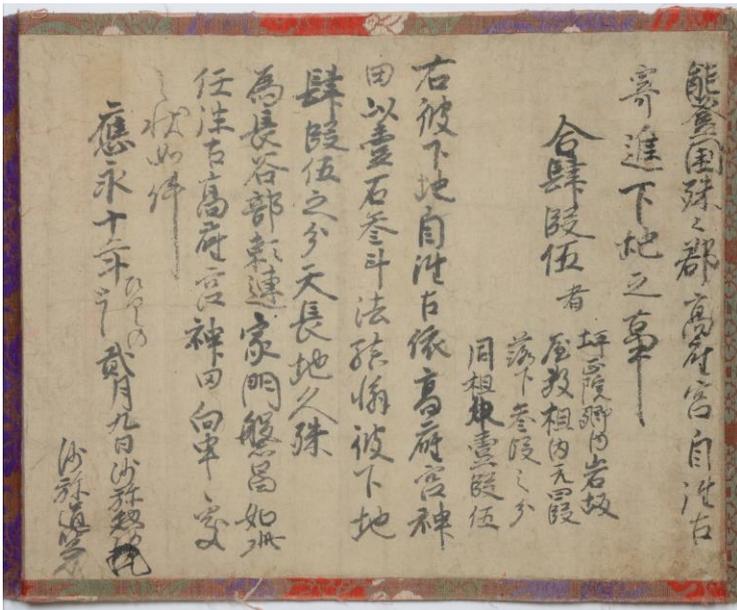
テーマ展2 「県指定文化財 須須神社文書を読む」

石川県指定文化財「能登国司庁宣」 承安5年（1175）2月28日 須須神社蔵



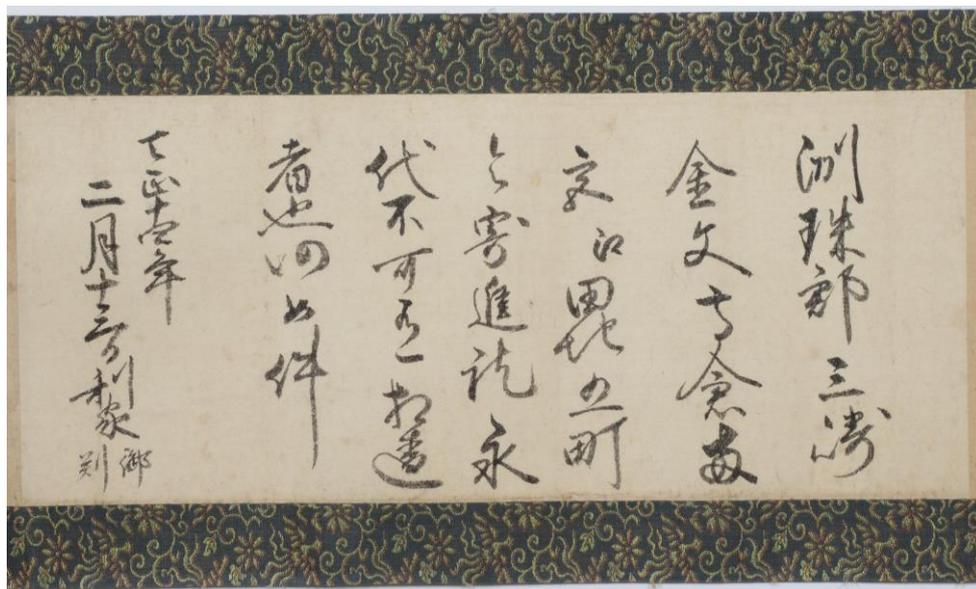
能登国^{かたかみのほ}珠洲郡方上保の土地1町を、妙成就院^{みょうじょうじゆいん}の仏聖料^{ぶつしょうりょう}（仏前に供える仏飯^{ぶつばん}の費用）とするよう命じた書状。妙成就院は須須神社の神宮寺^{じんぐうじ}であった高勝寺^{こうしょうじ}の一施設で、本文書はその実在を示す最古の資料であり、また石川県下の古文書のうち、最も古い日付を持つ文書でもある。なお「国司庁宣」とは、京都にいる国司（国の役所である国衙の長官）が中央から指示命令を受けた際、国衙にいる部下にその命令を伝達するために発行した文書のこと。

石川県指定文化財「沙弥惣阿・道監連署書下状」 応永10年（1403）2月9日 須須神社蔵



長家ちやうの先祖である長谷部頼連はせべよりつらが、高座宮たかくらぐう（須須神社の前身）に対し、かつて先祖が寄付した土地が引き続き高座宮のものであると保証したもの。長谷部氏は鎌倉時代初頭おおよに大屋荘（現 輪島市・穴水町・能登町の一部）地頭じとうとして能登にやってきた長谷部信連のぶつらを祖とし、能登各地に勢力を伸ばした。須須神社が有力者の庇護を受けていたことを示す資料である。

石川県指定文化財「前田利家寄進状案」まえだとしいえ きしんじょうあん 天正14年（1586）2月13日 須須神社蔵



前田利家が須須神社の前身である金分宮きんぶんぐう・高座宮たかくらぐうへ田地5町を寄付した書状の案（写し）。利家は能登各地の寺院に田地を寄付しており、金分宮・高座宮も同様に庇護を受けたもの。前田家はその後も須須神社に対し、藩主の病氣平癒を祈願する、建物を建立するなど帰依・援助をしており、同社が重要視されていたことがうかがえる。